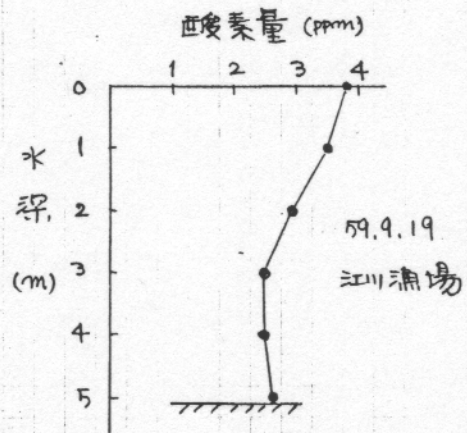


酸欠は

終わった？

九月に入って、かう、水温が急に下がってきた。今は二四度前後です。水温が低下してきますと、なんとなく酸欠の危険が去ったような気がしてきますすが、果してそうでしょうか。

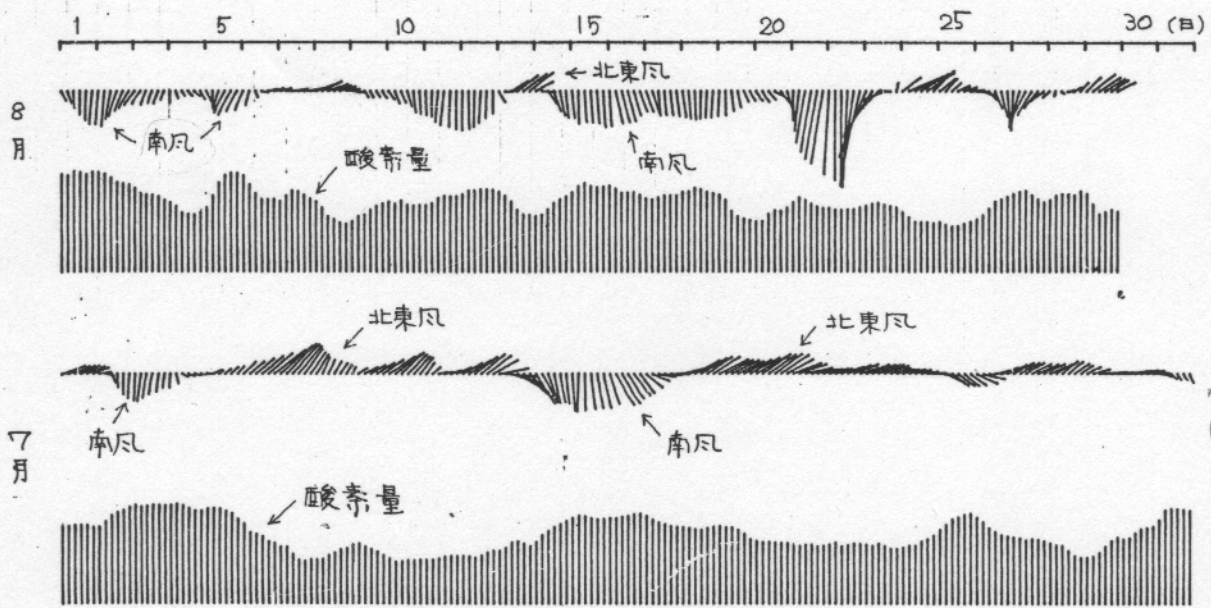
下の図は、九月十九日の江川養殖漁場中央付近の、酸素量の分布です。表層は、まずまずとして、水深ニメートル以下は、二四度と低い



トル以下は二四度と低くなっています。一昨年、手賀漁場で大きな酸欠水が発生したのは、九月十八日〜二十三日です。遅くには、十月に死んだ年もあります。寒くなってきましたと、アオコが少なくなると、珪藻などの冬型のプランクトンが増えますが、まだアオコは多く分布しています。

北東の風が吹くと、漁場の酸素がなくなる、ということについては、既に「かわら版 55号」で書きました。

下の図は、今年の七月と八月に、内水試の枝橋で測定した酸素量と、北東の風が吹くと、酸欠水が下がり、南寄りの風が吹くと、酸素が多くなっていることが判ります。風向きの変化に注意して下さい。



内水試